



大谷_やっと出た移籍待望の第1号



4/3_台湾_震度6強の大震災

3日朝、台湾東部沖を震源とする大きな地震が発生しました。マグニチュード7.7、震度6強とのことで、30万都市花蓮という観光地で複数のビルの倒壊や土砂崩れなど大きな被害が出た模様です。今日現在、死者13名、外国人を含む行方不明者9名、負傷者1135名で、生存率が下がる“72時間”が過ぎてしまいました。日本も過去の震災の都度、台湾から大きな支援を受けており、今回は日本から救助隊も応援に駆けつけています。昨日は地震の少ないアメリカ東部のニューヨークやワシントンでも地震があったとのことで、地球全体で地殻変動が活発化しているのかもしれませんが、そろそろ東京都心にも直下型の地震が起こるような雰囲気が出てきました。

イスラエルのガザ侵攻から半年、ナタニエフが掲げる“人質解放”と“ハマス幹部の殺害”、その成果は捕虜奪還がわずか3人、標的とするガザ地区トップのシンワール指導者たちの発見にも至っていません。そしてさらに多くの民間人を巻き込んで、死者3.3万人超という悲惨な状況になっています。食糧支援を絶たれ、餓死者も出始めています。そんな中、イスラエル軍の攻撃で米国の食糧支援団体のメンバーの車列が攻撃を受け、7人が死亡したとの報道がありました。ナタニエフはすでにイスラエル国民からも退陣を迫られ、おまけにバイデン大統領の逆鱗に触れて窮地に追い込まれています。東京新聞1面“筆洗”にはこんなことが書かれていました。

筆洗 4月7日付

創設のきっかけは2010年のハイチ地震だった。深刻な滋養今日を知った米国の有名シェフ、ホセ・アンドレスさんが現地に入った。被災地、戦地で食事を提供する国際NGO「ワールド・セントラル・キッチン」(WCK)の始まりという。「空腹な人がいれば、どこにでもいく」。ホセさんの言葉がうれしい▼「ホットフード」が合言葉らしい。被災地での食事といえば、味は二の次になりやすいが、

温かい料理の提供を心がけているようだ。現地に厨房をこしらえ、そこで調理する▼ハリケーンの米国、オーストラリアの森林火災、トルコの地震。その味が困難の中にあった人々の体と心を温めてきた。日本でも新型コロナウイルスの感染拡大で横浜港に足止めとなった「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客に食事を出した▼イスラエルの侵攻で人道危機にあるパレスチナ自治区ガザでの活動中に悲劇が起きた。WCKの車列がイスラエル軍の攻撃を受け、スタッフ7人が死亡した▼イスラエル軍は「誤爆」と説明するが、つらい人々のおなかをいっぱいになりたいと願い、奔走してきたスタッフの死がくやしい▼事件を受け、米国はイスラエルに民間人保護や人道状況の改善を求め、応じなければ、イスラエル支援を見直すと警告した。ガザの死者は既に3万3千人を超えた。遅すぎる米国の圧力に冷め切った「料理」を思う。

バイデン大統領も自国民が殺されないと本気で怒らない、それもなんかなあ〜って思いますが、在日米軍だってしかり、沖縄に米軍基地が集中しているのは、第二次大戦後、旧ソビエトが北海道を侵犯しようとしていたので、北海道には米兵の死者を出さないため米軍基地は置かず、遠く離れた沖縄や石垣島から出動するようにしたからです。現在、その脅威がほぼなくなり、今は中国からの侵略が懸念されているため、米軍は日本列島から撤退してグアムへ移設しようと考えています。はなから日本を命がけで守るなんて考えていません。都合が悪くなればすぐに引き揚げる、そろそろ日米安保条約なんてやめて、自力で日本を守る一軍備しろってことではない—ことを考えた方がよさそうです。今年秋、“もしろ”が起きれば、NATO 撤退、世界中に点在する米軍の引き揚げなど本気でやるかもしれません。それが彼のいう“アメリカ・ファースト”なんです。

小林製薬の紅こうじ禍はさらに深刻になりつつあります。これまでに5人が亡くなり、196人が入院しているそうです。特定保健用食品—トクホ—を隅に追いやり、機能性表示食品を広く世の中にまん延させた今は亡き安倍さん、彼の数々の“負の功績”がいま国民に重くのしかかっています。東京新聞“本音のコラム”三木義一さんの視点です。

機能性表示 4月4日付

三木 義一 — 青学大名誉教授 —

小林製薬の紅こうじ問題はまだ真相が明確になっていない。ただ、機能性表示食品という、それまでの規制を取り払った制度が被害を生み出した一因のようだ。

その制度を作った安倍元首相は2013年6月5日「成長戦略第3弾スピーチ」において次のように高らかにその意義を強調した。

「健康食品の機能性表示を解禁いたします。…現在は、国からトクホの認定を受けなければ、強い骨をつくるといった効果を商品に記載できません。お金も時間もかかります。…アメリカでは、…

商品に機能性表示を行うことができます。国へは事後に届け出をするだけでよいのです。…目指すのは、世界並みではありません。むしろ、世界最先端です。世界で一番企業が活躍しやすい国の実現。それが安倍内閣の基本方針です」

国民を守る規制を企業のために突破したようにも読めてしまう。このために、その年の1月の規制改革会議の中に「健康・医療WG」を設けていた。そのメンバーが興味深い。座長代理が林いずみさん、委員が金丸恭文さん、佐々木かをりさんというそうそうたる顔ぶれだ。佐々木さんは現在小林製薬の社外取締役でもある。座長が、なんとこの1月政府税調会長に就任された翁百合さんだった。少し心配になったのだが、多分それは気のうせいだろう。

大阪市中央区に本社がある小林製薬は、大阪万博の大スポンサーでもあり、大阪府のパビリオンに1億円の提供と展示を予定していましたが、今回の件でおそらく撤退を余儀なくされており、主催側としても大打撃、ひょっとしたら“万博中止”の引き金にもなりそうです。“災い転じて…”という表現が適切かどうか分かりませんが、できれば中止になっていただければ、多くの国民が喜ぶかもしれません。

自民党の裏金問題で、岸田さんが処分を発表しましたが、なんだかオソマツ。まずご本人と二階さん、それから森さんがおとがめなし、これ決定的におかしい、手前味噌もいいとこ、民間の企業であれば、これだけの不祥事を起こしておいて社長の責任が問われないということは絶対ありません。そして離党勧告の世耕さんは和歌山県選挙区で二階さんとは犬猿の仲、これで今回は落選確実、なんかお気の毒に…—自業自得—。一番不可解なのは、“党の役職停止1年”の萩生田さん、安倍さんとあれだけベツタリで、落選した時期には加計学園に拾われてメシまで喰わせてもらったりした人物ですが、これも二階さんのメンコちゃんのおかげで救われたのかも。そもそも現在は不祥事発覚後に役職から降りてヒラなのに、この処分痛くもかゆくもない、こんなことで国民が黙っていると思うなよ、岸田さん！東京新聞“本音のコラム”前川喜平さんからのオトガメです。

コップの中の泥仕合 4月7日付

前川 喜平 — 現代教育行政研究会代表 —

裏金問題で自民党が39人の処分を発表したが、選挙に影響する「離党勧告」と「党员資格停止」は塩谷立、世耕弘成、下村博文、西村康稔、高木毅の5氏だけ。「党の役職停止」以下は実害のない軽い処分だ。

1人だけ「党の役職停止」でも困る人がいた。岸田文雄総裁自身だ。岸田派と二階派は派閥で裏金づくりをしていたのだから、会長は処分されて当然なのだが、二階俊博氏の「不出馬表明」のおかげで、岸田氏は自分自身を処分から外すことができた。見返りは、地元和歌山で対立する世耕氏への重い処分と武田良太氏ら二階派幹部への軽い処分だろう。武田氏と地元福岡で対立す

る麻生太郎副総裁は、武田氏への重い処分を求めたそうだが、岸田氏は二階派への配慮を優先したのだろう。

裏金づくりの中心人物と目される森喜朗氏も不問に付された。代わりに生贄にされた塩谷立氏は次の選挙で引退を余儀なくされるだろう。軽い処分で温存されたのは萩生田光一氏だ。安倍派を継ぐ者として遇されたのだろう。岸田氏は電話で森氏に事情聴取したそうだが、実は処分の相談をしていたのではないか。

すべては自民党というコップの中の泥仕合だ。本当の課題は、パーティーも含めた企業・団体献金の禁止と政治資金の使途の透明化だ。審判を下すのは国民である。

何でもいから、早く解散して国民全員で“選挙”をやきましょう！結果、自公が過半数割れしたら、野党の皆さん、どうするおつもりですか？今まで自公に出していた対案をまとめて、しっかり“与党”をやりきれますか？ん～、これも不安。でも自公ではもうダメ！タナボタで小池百合子もなんかイヤだよなあ～。考えているようで、何も考えがない、そんな私です。

クラレが3日、小学校に今春入学する新1年生に将来就きたい職業を尋ねたアンケートの結果が載っていました。なんでクラレ？って思ったら、人工皮革製のランドセルを製造しているんだそうです。その結果、男の子は1位スポーツ選手、2位警察官、3位消防・レスキュー隊の順だそうです。女の子は1位ケーキ屋・パン屋、2位芸能人・歌手・モデル、3位保育士とのことでした。なんとなくユーチューバーなんかじゃなくてよかったよなと思いました。ちなみにパン屋さんは廃業が増えて、昨年度は過去最多を更新したそうです。夢のあるアンケート結果に難くせつけちゃいけませんね。

なかなか1本が出なかった大谷選手によりやく第1号が出ました。翌日はすぐ2号、そして今日は、ホームランは出なかったものの3連荘のマルチ安打、ようやく調子が上向いてきたようです。“一平ショック”で精神的に落ち込んでいたのかと思ったら、チーム内で風邪かなにかが流行っていて、体調を崩していたそうてです。敵地シカゴカブスのファンからは“もう打たないで！”の大ブーイングが起きていたそうです。さすが大物です。そして山本由伸がメジャー初勝利、5回を3安打無失点、8奪三振という素晴らしい内容でした。相手カブスには鈴木誠也と今永がいて、日本人対決もなかなか見どころですが、試合が夜中なので、朝のニュースで結果を見るだけなのがとてもザンネンです。広い米国内を飛行機で飛び回り、時差との闘いもさぞや大変だろうと思います。まあ、皆さんあれだけギャラをもらっているのに、最高のパフォーマンスで観客を魅了するのが、お仕事かな？ちなみに米国では圧倒的にアメフトが1番で約4割、バスケットと野球がそれぞれ1割と、米国民の野球の知名度はイマイチ低いようです。今日は久々に暖かくよいお天気で、とても気持ちよくキーボードが叩けました。